

介護あんしん 相談員だより

第33号 平成30年3月発行
発行：鳥栖地区広域市町村圏組合
(介護保険課 地域支援係)
連絡先：0942-81-3111

介護あんしん相談員は橋渡しをします！

施設に入居していると、ちょっとした不満や不安があっても、直接スタッフに言うことを遠慮してしまうことがあります。介護あんしん相談員はご本人やそのご家族が施設職員に直接は言いにくいことをお聞きしたり、客観的な目で見えて気づいた点や、施設側に伝えて問題の解決をはかります。



利用者さんや介護あんしん相談員の声からいくつかご紹介します
(平成29年12月・平成30年1月)



～介護あんしん相談員の声より～

相談員：ご利用者さまは、クラブ活動を頑張っておられますね。
施設：最近クラブ活動に力を入れています。

【鳥栖地区広域市町村圏組合より】



こちらの施設の管理をされている方が、とても農業に詳しい方で、畑を作ってもらったそうです。施設の利用者さまも2名参加されて、いちごや野菜を植えられたということです。毎日野菜や果物の成長がとても楽しみにになりましたね。

今回の報告書の中で、“クラブ活動”という言葉にとっても魅力を感じました。もう既に実施されている施設もたくさんあると思いますが、学生さんと同じように、お習字クラブ・園芸部・華道部・お料理クラブ・囲碁将棋クラブ・折り紙クラブ・カラオケクラブなどという呼び名にするだけでも楽しみになりそうですね。野球部・サッカー部はさすがに難しいかも知れませんが、野球観戦・ゴルフ観戦・サッカー観戦などテレビでのスポーツ観戦は男性の方は特に好きかも知れませんね。

利用者さまも長年腕を磨き上げられた特技をお持ちの方がいらっしゃると思います。得意な事をお聞きして出来る範囲でクラブ活動に入って頂いたら、より楽しみにされる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。施設ごとの交流試合などが出来たら楽しそうですね。



～利用者さまの声より～

利用者：「外に出たい」と立ち上がって玄関から外に出て行かれる。
施設：出来るだけその方らしい生活が送れるよう、支援に努めています。

【鳥栖地区広域市町村圏組合より】



利用者さまが「外に出たい」と玄関から外に出られた時には、すぐにスタッフさんがついて行かれ、ほどなく二人で帰って来られるという事です。今は外が寒いので利用者さまもすぐに戻られるようです。利用者さまの表情も良く、外に出る方への対応も自然に行なわれていて良かったという事でした。

「外に出たい」は人として自然な感情だと思います。声が出るのは何時、どんな状況の時、スタッフの状況、部屋の雰囲気、利用者間のトラブルなどいろんな視点が必要です。

玄関にはどこの施設も施錠がされていないと思いますので、利用者さまが外に出て行かれることへの対応は、工夫をされていることだと思います。いつもありがとうございます。

利用者：「もうノート一冊なくなりますよ。」

相談員：大学ノートに作文をぎっしりと書いておられました。少し読ませて頂くと、思い出ではなく、食事のこと、体調、今思っていることなど、今の事のようにでした。

【鳥栖地区広域市町村圏組合より】



こちらの利用者さまは、年末頃から亡くなられたご主人へ向けて、今日あった事等をノートに書いておられるそうです。文章を書かれるようになってから、姿勢も良くなられ、被害妄想的な発言も減ったように感じられるそうです。文章を書くことでストレス発散が出来ているのかもしれないという施設からの回答でした。

日記のように毎日文章を書くということで一日の振り返りができ、また文字は書かないと高齢者だけではなく、若い人もどんどん忘れてしまいそうな気がしています。今はパソコンやスマートフォンを使う機会が増え、文字を正確に覚える必要が無くなっていくのではないかと心配しています。

他の施設でも利用者さまがみなさん日誌を書いておられるところもあるようです。名前だけの時もあるそうですが、食べたいものなども書いてあって、良い取り組みだと思いました。



鳥栖広域 相談員だより

検索

鳥栖地区広域市町村圏組合のホームページで、今までの「介護あんしん相談員だより」を閲覧することができます。ご利用ください。